

平成 26 年度海外安全管理委員会 開催報告

■ 開催のご報告

この度、下記の通り、平成 26 年度第二回海外安全管理委員会を開催しましたことをご報告致します。

■ 開催概要

日 時：平成 26 年 11 月 11 日（火）14:00～16:00

会 場：東京大学本郷キャンパス小島ホール 5 階会議室

出席者： 委員長 藤本 隆宏 （東京大学大学院経済学研究科教授）

委員 庄司 道弘 （横浜関内法律事務所弁護士）

オブザーバー 安全サポート株式会社

アイセック・ジャパン 各務 茂夫 （会長） 他 8 名

■ 海外安全管理委員会について

アイセック・ジャパンでは、送り出し研修プログラムを安全に運営するために、海外安全管理委員会を平成 25 年 7 月より毎年 2 回ずつ継続的に開催しております。平成 25 年第一回海外安全管理委員会においては、同年 5 月の送り出し研修事業再開後の初めての送り出しに向けた管理体制の最終確認を行い、それ以降の回では、送り出しにおける海外安全管理制度の履行状況の報告、及び、制度の改善策や海外危機管理体制に対する諮問を主な目的として行っております。

■ 現在の安全管理制度について

現在アイセック・ジャパンでは、これまでの海外安全管理委員会におけるご意見、ご指導をもとに海外渡航における安全管理を行っております。今回の海外安全管理委員会ではこれらの取り組みを前提として議論を行っております。

現在の安全管理制度に関する主な取り組み

- ・参加資格における語学スコア基準引き上げを含む渡航者スクリーニングの強化
- ・外務省危険情報に基づく渡航・滞在可能地域の決定
- ・危機管理専門家監修のもとでの渡航者向けガイドラインの配布、講習会の実施
- ・渡航情報の把握と空港・宿舎到着後にそれぞれ 1 時間半以内の到着確認

- ・ 空港からの移動は現地アイセックによる出迎え、または提携企業によるハイヤーに限定
- ・ 24 時間日本語電話相談窓口の設置

(詳細はこちらをご覧ください。 <http://intern.aiesec.jp/safety/>)

■ 今回の海外安全管理委員会でいただいた意見

渡航における海外安全管理制度の改善がこれまでに取り組まれていることを踏まえ、今回の海外安全管理委員会では組織として継続的に海外安全管理に取り組む基盤強化について議論がなされました。特に、「組織内での海外安全管理意識の醸成」と、「組織の海外危機管理担当者の育成」の2点に関して、委員の方から多くのご意見を頂戴致しました。

「組織内での海外安全管理意識の醸成」に関しては、これまでも全メンバーが安全について考える機会を設ける海外安全月間などに取り組んでまいりました。しかし、「送り出す担当者が、発生しうるケースを予め思考しておかないと実感を持って取り組むことが難しい。」とのご指摘を受けました。これについて、「今後は、実際のトラブルケースをもとにした資料等を、送り出しのピーク時期より前に送り出し担当者に提示して意識の醸成を図った上で、業務内容の教育を行うべき」とのご意見をいただきました。

「組織の海外危機管理担当者の育成」に関しては、現在も渡航者を専属でサポートするメンバーの知識を担保するためのライセンス制度等を設けております。しかし、組織の海外危機管理体制を構築していくことのできる、より高度な知識や思考を持ったメンバーの育成を経年的行っていく取り組みが必要であると判断し、その方法について諮問致しました。これについては、「組織の危機管理部門は重要な部門であり、事業部で最も活躍したと言われるような優秀な人材がやるべき。そのために、危機管理という役職が、周りからリスペクトをもらっているという風土・体制をつくるのが大事である。」とのご意見をいただきました。

■ 今後に関して

委員の皆様からご指摘いただいた点につきましては、今後の組織運営、事業運営に活かしていきたいと考えております。引き続き海外安全管理の面で弛まぬ努力を続けてまいりますので、今後とも弊団体を何卒宜しく願いいたします。

2015年1月

アイセック・ジャパン事務局